

厚労省「第3回 小児がん拠点病院の指定に関する検討会」 小児がん拠点病院候補施設に対するヒアリング選考を実施

2012/12/27

小児がん拠点病院の指定に関する検討会（座長：垣添忠生・公益社団法人日本対がん協会会長）は、12月25日及び12月27日、全国に10カ所程度の小児がん拠点病院を選定するための二次選考として、ヒアリングを実施した。



ヒアリングに先立って、厚労省は申請があった全国37病院に対し書類選考を実施。地域性や診療実績などを考慮し、二次選考としてヒアリングを行う全国22病院を選出した。

25日には、東北大学病院（宮城県）や聖路加国際病院（東京都）など11病院に対して実施。27日は以下に記した残りの11病院が対象となった。

新潟大学医歯学総合病院（新潟県）、静岡県立こども病院（静岡県）、名古屋大学医学部附属病院（愛知県）、三重大学医学部附属病院（三重県）、京都大学医学部附属病院（京都府）、京都府立医科大学附属病院（京都府）、大阪府立母子保健総合医療センター（大阪府）、大阪市立総合医療センター（大阪府）、兵庫県立こども病院（兵庫県）、九州大学病院（福岡県）、鹿児島大学病院（鹿児島県）。

■委員から「長期フォローアップ体制」「AYA世代の配慮」などの質問飛ぶ

ヒアリングは、事前に事務局が提出した評価視点に沿って各病院が発表を行った上で、委員が具体案などを質問する形で進められた。評価視点には、「集約化を進める疾患・病態」「長期フォローアップ体制」「小児緩和ケアの提供体制」「宿泊施設等を含めた家族等の支援体制」「相談支援・情報提供体制」——などが挙げられた。また、「地域医療機関等との連携・協力体制」「今後の長期的・具体的計画」は全評価項目において重視するとされた。

委員からは、「長期フォローアップ体制の構築方法」「現在連携していない医療機関との今後の連携可能性」「相談体制の整備に向けた環境づくりの方法」「AYA世代（15～29歳）への支援体制の内容」——などの質問がなされた。

これらの質問に対し、各病院の担当者からは「専門外来を設置することによりフォロー体制や相談体制を整備していく」「がん治療の相談や医師の派遣等を通じて、より多くの医療機関等との連携構築を目指す」「AYA世代の支援に関しては、年齢別病棟の設置等を考えている」——などといった対応策の回答がなされた。

今後は、今回の2日間にわたるヒアリングの結果を基に、委員と事務局が議論を重ね、来年早々にも全国10カ所程度の小児がん拠点病院を絞り込むこととなる。

次回の会合は年明けを予定。